

# 次世代に つなげる森林づくり



NO. 40号  
令和3年12月22日

森林技術・支援センター

## 実践研修開催（令和3年11月17～19日）

### ～スペシャリストの育成を目指して～

11月17日から19日まで、四国森林管理局において「技術力維持・向上対策研修」の四国ブロック研修が開催されました。

この研修は、森林総合監理士等のレベルの維持・向上のため、「地域の特性等を踏まえた森林・林業の再生に向けた課題」を設定し、その背景、解決策を共有することを目的とし、自治体職員にもご参加いただき実施しました。

今回の研修での課題は、「**地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について**」として、我が国特有の急峻な地形に応じた効率的な架線系と路網を描くための能力習得に向けての実践研修を行いました。

**1日目** まずは、話題提供として（株）サイプレス・スナダヤの砂田社長から「大型製材工場の現状と課題について」と題し、現在の木材動向やCLTの状況と近年のコロナ禍によるウッドショックで、木材価格が高騰している原因について説明がありました。次に当局資源活用課長から、ユーモアを交えた集材架線システムについての説明を行い、研修生の「搬出系統図」の作成がよりスムーズに進むことができました。

**2日目** 栃ノ木谷山国有林の間伐実施箇所をモデルに、有利販売に向けての採材研修を実施しました。最初に、高知県森連高幡共販所の大川所長から、「採材はこれが正しいというものはないが、現在、どのような規格にニーズがあり売れているか、情報を常に把握しておく必要がある」等、採材の重要性についての説明がありました。そのあと須崎地区森林組合の太郎田業務係長から、実際の現場での複雑な集材架線システムについての説明があり、各班が初日に作成した「搬出系統図」を現地の状況に照合し、机上ではわからなかった地形等を確認しつつ、条件に合った新たな「搬出系統図」に修正しました。

最後に、現地では出来なかった全体の集材架線システムを、局駐車場内に設置した「ミニ集材架線システム」を使いながら、架線全体の索張り方式について説明を行ったあと、電動ミニ集材機の操作を、現地での集材作業を想定して、研修生に操作を体験してもらいました。

**最終日** 搬出コストの計算や森林GISを活用して架線や路網の設計を行い、2日目に作成した「搬出系統図」を完成させ、その成果を市町村等の林務担当者に向けて説明するという想定で、各班が発表を行い、活発な意見交換を実施しました。

今回の研修で、現況を把握しつつ、地域のニーズを踏まえた木材販売に向けた検討及び集材技術としての架線技術の向上が必要不可欠であるということは理解いただけたと思います。今後も情報、問題点を共有し、スペシャリストと呼ばれる技術者の育成に努めたいと感じました。

#### 受講生の感想

「これまで集材方法として、架線という選択枝はなかったが、条件によっては架線集材が有効な場合があることが学べた。」「このような研修の機会はあまり多くないので、年に一度は経験する必要があると思う。」「架線システムを提案できる技術者になりたい。」「地元は林業が主産業であり、今回学んだことを後輩たちにも継承して、林業振興に繋がりたいと思った。」



（有利販売に向けて採材を検討）



（ミニ集材架線システム体験）



（搬出系統図完成を目指して）

今後も技術力の維持・向上をめざして、  
スペシャリストな技術者を育てて参りたい  
と思います。

\*各種試験等についての問い合わせは  
四国森林管理局 森林技術・支援センター  
TEL088-821-2250 Fax088-821-4839  
E-mail shikoku\_gijyutu@maff.go.jp

